☑ 結論:

- 5は参考文献不要で問題なし
- 6は文献4(JAMA)を再使用するのが最適(編集者と責任というテーマが直結しているため)

次に進める準備ができたらお知らせください。文献リストの更新も続けて対応します。

0 0 0 0 1 CV

ここから先は参考文献いらなそうですね?どうでしょう??>> 私たちは、論文執筆にAIを使う際に「プロンプトと出力」をPDF形式で保存し、原稿とセットで管理することを提案する。MarkdownやTXTでは編集履歴が残らず、改ざんの懸念が残る。一方、PDFで保存しタイムスタンプを記録すれば、出力の由来や責任の所在を明確にできる。

GitHub上では、AI使用の透明性を担保するテンプレートと保存例を共有している (https://github.com/KenjiroShiraishi/ai-use-policy-in-scholarly-writing)。ここでは、NEJM AIやBMJ、JAMAなど主要ジャーナルに提出可能な 開示文例と、プロンプト保存のフォーマットを公開している。

結論:新しい知的責任のために

AIは知的生産を加速する。しかしその過程を不透明にすれば、科学は信頼を失う。プロンプト保存は単なる手間ではない。それは、「人間が指示し、人間が責任を持つ」という基本的原則を守るための、最小限にして本質的な手続きである。 今後、編集部がプロンプトの提出を求める時代は来るだろう。その前に、著者自身が自発的にその記録を残す文化を育むことが、科学の未来を守る道である。

はい、結論パート(および提案パート)に関しては、参考文献は必須ではありません。以下の理由から、文献なしでも論理的・実践的に自立した主張として十分に成立します:

☑ なぜ参考文献が不要か?

- 1. 著者自身の提案・実践に基づく内容であるため
 - → GitHubリンクに代表されるように、これは著者が「行っている」「提唱している」具体的行動。第三者の引用ではなく、一次的な提案であるため文献を添える必要はない。
- 2. 一般的な技術的常識・運用に基づく説明であるため
 - → 「PDFは改ざんされにくい」タイムスタンプで記録が残る」といった主張は、業界で共有されている常識的内容であり、逐一文献で裏付ける性質のものではない。
- 3. 結論部は宣言的・倫理的メッセージが主軸であり、論拠より価値判断が中心であるため
 - → 「人間が責任を持つ」という一文などは、倫理的価値を訴えるものであり、文献で裏付けるというより筆者の立場・信念の表明と考えるのが妥当です。

● ただし文献を追加する場合の選択肢

強いて補強したい場合、以下のような文献を脚注的に使うことは可能です:

- OECD (2023). Principles for Trustworthy AI 「人間の関与と責任」に言及
- ICMJEの著者基準ガイドライン 「責任は人間が持つ」に対応
- NatureやNEJM AIのポリシー 編集部によるAI使用制限の前提として

ただし、これらはすでに前半の文献で十分カバーされているため、**ここで再度引用する必要性は低い**です。

☑ 結論:

このパートは参考文献なしで問題ありません。著者の実践的提案と倫理的主張で構成されており、文献による裏付けよりも明快な構造と説得力が求められます。

構成や表現をさらに磨きたい場合もご相談ください。必要なら、この部分の英訳やMarkdown化も対応できます。

質問してみましょう

十 🕏 ツール

بان <u>0</u>